

参道空間におけるシーケンスの構成把握

大阪工業大学大学院工学研究科 学生会員 ○大崎雄治
 大阪工業大学工学部 正会員 吉川 眞
 大阪工業大学工学部 正会員 田中一成

1. はじめに

わが国では、急速な経済成長や都市化の影響を受け、歴史的空間や文化財の多くを失っている。しかし、近年の成熟社会により、地域固有の歴史や文化に対する人々の意識が高まりつつあり、都市空間でも歴史や文化を意識した政策が行われている。こうした歴史や文化を活かす取り組みには、地域固有の歴史や文化を知り、現代都市空間における価値を再評価し、良好な空間を形成していくことが重要である。すなわち、現代空間は歴史的空間との間で、うまく対立と調和を図っていかなければならない。

2. 研究の目的と方法

寺社は、古くから人々に親しまれ、都市空間において重要な歴史的資源として位置付けられている。寺社の大半には参詣するための道、参道空間が形成されている。参道空間は、境内にある道として認知されていることが多い。しかし、境内だけでなく境外の空間、すなわち、都市空間において寺社へ至る空間もまた参道空間である。現代では、後者の参道空間が重要になっていることから、寺社などの歴史的空間と都市側の現代空間との間で、対立と調和を図る必要がある。そこで本研究では、現代の都市空間における参道空間を把握し、寺社へと至るネットワークに着目した空間の構成を明らかにすることを目的としている。

研究方法は、絵図や名所案内などから得られる往時の空間データを整理し、参道空間の歴史の変遷を把握する。地理空間情報システム（GIS：Geospatial Information System）を用い、現代空間上に、過去の情報を定位し、空間の変遷を捉える。次に、寺社と周辺名所の道路ネットワークに着目した圏域分析を行うことで、時代ごとの参道空間を把握している。さらに、ビッグデータといわれる空間データから得られる人々の位置情報を用いて、現代の参道空間を把握している。これらの結果をもとに寺社へ至る空間の構成を明らかにしている。

3. 対象地の選定

寺社は日本各地に点在し、どの範囲を参道と呼ぶかは、場所によって異なる。そこで、単に寺社の境内を参道空間とするのではなく、境外である都市から寺社へ至る道を参道空間と定義する。さらに参道から都市へと広がる空間や参道に形成された門前町に着目し、参道空間に特徴的である寺社の選定を行っている。その結果から、奈良に着目している。奈良には、東大寺、興福寺、春日大社の大社寺などの歴史的空間と現代空間が混在している。そこで、東大寺、興福寺、春日大社の門前町であった奈良町には、それぞれの寺社が参道空間を形成されていると考えて、全域を対象とした（図-1）。また、この境界のことを江戸期では、奈良町と呼び、現代では、元興寺の旧境内地域とくに、「ならまち」と呼ばれている。本研究では、「奈良町」を「ならまち」も含む旧市街地、「ならまち」を元興寺の旧境内地域と区別して記述している。以降では、これらの範囲を対象地域とし、ネットワークに着目した分析を行っている。

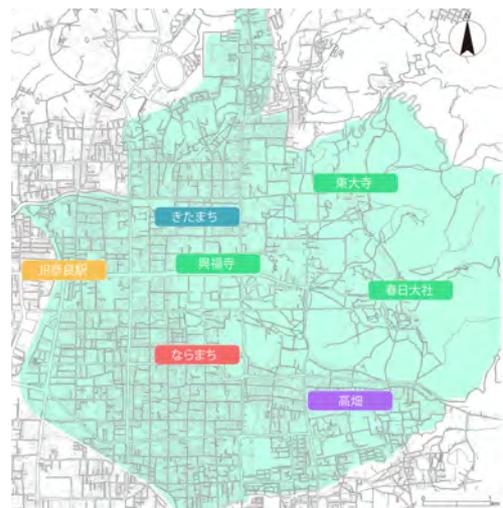


図-1 奈良町

キーワード 参道空間, 圏域分析, Twitter

連絡先 〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1 大阪工業大学 TEL 06-6954-4109

4. 分析

現代における参道空間は、さまざまな場所を巡り、観光しながら、寺社へと向かうルートが参道空間となっている。そこで、道路ネットワークと寺社、ならびに名所に着目し、ネットワークを用いた圏域分析を行っている。対象となる名所は、絵図・名所案内記、観光ガイドブックを活用し、記述されている名所を各時代毎に整理し、GIS上でプロットした。次に、名所や観光スポットを巡るルートを推定する。しかし、絵図・名所案内記には、巡るルートが記述された史料は数少ない。そのため、名所付近の道路ネットワークは必ず利用されると考えられるため、最短距離を算出し、史料からルートの推定を行った。さらに、名所付近には参道空間が形成されるため、各名所毎に到達圏の設定を行い、各時代の参道空間となり得る空間を抽出した(図-2)。

江戸期では、寺社付近のみに参道空間が存在していた。時代が進むにつれ、参道空間が寺社から都市へと拡大しているのが分かる。さらに、それらの空間から道路ネットワークを抽出し、現代都市空間における参道空間を把握した。その結果から、現代の参道空間にはさまざまなルートが形成されていることが確認できた。

くわえて、いわゆるビッグデータと呼ばれる空間データを用いることで、参道空間内で実際に使われているルートの把握を行っている。使用するデータは、Twitterから抽出された位置情報である。Twitter APIで取得したデータには、建物内に存在している位置情報をもったものも含まれているため、近接する参道空間上に移動させている(図-3)。Twitterでは、駅、商店街に多くのツイートが見受けられ、また、観光スポット付近でのツイートが密集している。これらのツイート位置は推定したルート上に多く、実際に利用されていることを検証できた。また、東京大学空間情報科学研究センターにより開発されたネットワーク空間解析ツールSANETを用い、名所また観光スポットとツイート位置に関するネットワークカーネル密度推定を行った。これにより、名所とツイートの分布密度を視覚的にわかりやすく表現ができた(図-4)。名所のみ、ツイートのみ、両方とも集積しているネットワークに分類され、名所とツイートの関係性が確認できた。

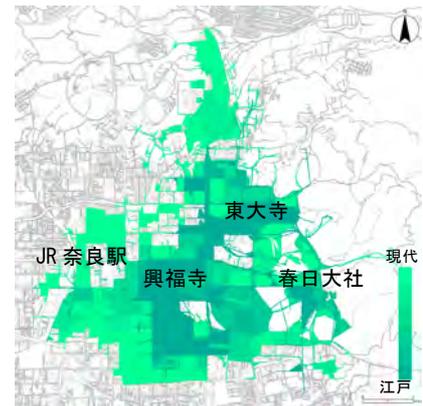


図-2 参道空間の変遷



図-3 Twitter+参道空間

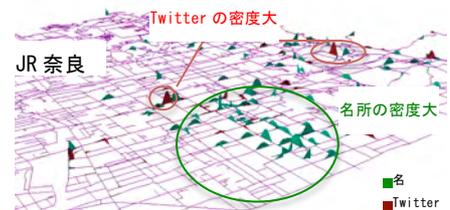


図-4 ネットワークカーネル密度推定

5. おわりに

本研究では、ネットワークを用いた圏域分析から、名所が参道空間を形成していることが把握することができた。さらに、各時代毎の参道空間の変遷を把握すると、寺社に参道空間が密集しており、徐々に都市側へと拡大していることがわかる。とくに、現代では、鉄道駅を起点とし、寺社を終点とする参道空間が形成されている。

今後の課題として、引き続き奈良町の参道空間に着目し、今回の分析結果をもとに狭域な景観分析を試みる。また、ソーシャルメディアのデータを積極的に活用した時空間分析へ展開したいと考えている。

参考文献

- Twitter Developers : <https://dev.twitter.com/>